

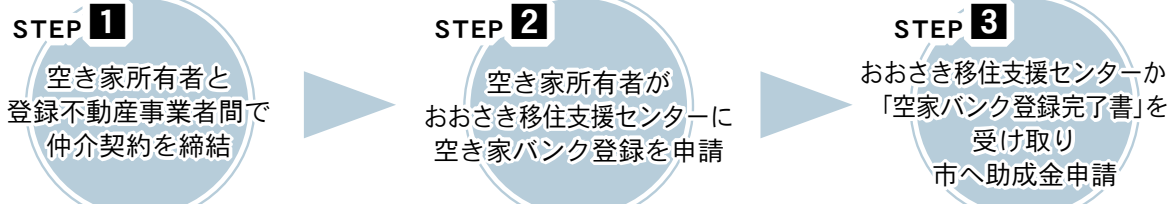
人口が減るにつれて、市内に「空き家」が増加しています。人が暮らしていない建物は傷みやすく、倒壊の危険も高まります。強風などによって、トタン屋根が飛んでくるなどの被害も実際に出ており、人命さえも脅かす危険性があります。管理が行き届かず、草木が生い茂って景観を損ねたり、野生動物の住みかとなっている例もあります。

移住者が住居を探す際、空き家に注目する人が少なくありません。空き家のリフォームや古民家カフェ（古民家風の空き家などを活用した喫茶店）などのブームによって、ニーズは年々高まっています。

市では、こういった移住者のニーズと空き家をつなぐために「空き家バンク」を設置しています。登録された空き家は、おおさき移住支援センターを通じて情報を発信し、移住者へとつなげています。空き家を所有する人は、ぜひ一度ご相談ください。

＼ **空き家バンク登録助成金** ／ **問** おおさき移住支援センター cu:rus（くーらす） ☎25-4493

空き家バンク 空き家を登録した所有者などに **1件**につき**1万円**を助成します。



※ここでのいう「空き家」とは、個人が居住を目的として建築し、おおむね年間を通して居住していない市内にある建物をいいます。「大崎市空家活用定住支援事業助成金交付要綱」に基づき、空き家バンクに登録された空き家は、移住支援センターを通じて、移住者などへ情報提供されます。

＼ **家賃助成金** ／ **問** 建築住宅課住宅計画係 ☎23-8057

空き家×移住者 空き家バンク登録した空き家に移住者が入居した場合、移住者へ家賃を減額した分、所有者などへ月額最大**4万円**（3年間）を助成します。

- 交付要件**
- ①入居者は少なくとも5年以上の入居を見込んでいること、②入居時の一時金（敷金など）は、月額家賃の2カ月分以内とすること、③月額家賃は10万円以内とすること、④定期借家契約の場合は契約期間を3年以上とすること、⑤賃貸借契約書に市からの家賃助成金分が月額減額される旨および不正に入居した場合契約解除について記載されてあること、⑥賃貸借契約を結んだ移住者と所有者が、3親等以内の親族でないこと、⑦所有者は毎年入居者の状況（家賃納入状況など）を報告すること、⑧入居者は、市の求めに応じて世帯構成や所得の状況調査などに協力すること

※そのほか条件がありますので、希望する人は必ず事前に建築住宅課住宅計画係（☎23-8057）までお問い合わせください。



＼ **問い合わせ先** ／

空き家バンクの登録や移住に関する詳しい内容は、お問い合わせください。

問 おおさき移住支援センター cu:rus（くーらす）（水曜日定休） ☎25-4493

問 政策課政策企画担当 ☎23-2129

家賃助成金のほか、所有者が空き家の改修を行う場合、最大100万円を助成します。空き家バンク登録後の改修や家賃助成の詳しい内容は、下記にお問い合わせください。

問 建築住宅課住宅計画係 ☎23-8057

空き家を生かすというひと

地域で支える

移住者が大崎を選ぶ理由はさまざまですが、この地の何かにほれ込み、大崎を知りたいと感じてくれることは共通していることでしょう。

それは、長年大崎に暮らしている人にも、通じていることかもしれません。「豊かな自然」「おいしい食材」「温泉がある」「人の温かみがある」「家族や大切な人がいる」。住みなれた地の自慢や好きなど、暮らし続ける理由・魅力は必ずあります。



移住サポーターに尋ねる

高橋一夫さんは、移住者と地域をつなぐ役割を担っている移住サポーターの一人。移住者の希望や不安を受け止め、地域に溶け込むための細かなサポートをしています。

「知り合いが誰もいない、右も左も分からない土地で生活を築くことは、簡単なことではありません」。そう話す高橋さんに、移住者が地域になじみ、地域も快く歓迎する、そのためのコツを尋ねました。

「地域とのコミュニケーションは、互いに気持ちよく過ごすために必要なことです。万が一、体調が悪くなったり、火災が起きたとき、地域が助けになることもあります。『清掃活動に行こう』『老人クラブに参加しよう』など壁を作らない小さな声掛けから、コミュニケーションが生まれます。困ったとき、声をかけてくれる人がいる安心感は、移住者に限らず、誰しも生活の支えになります。」

「インフラや商業施設が充実した地域に住みやすい、と思われがちですが、地域の温かみが、人をその地に根付かせる力になるのでは、と思います」

また、高橋さんは、仕事への不安を移住者から耳にすることが多いといいます。移住後、仕事が無ければ生活が成り立たず、不安に思うのは当然のことです。「都会に比べて仕事が少ない。そんなことはありません。人口が減っていく中で、後継者不足を嘆く業者は多くいます。業者と地域の人、移住者と移住サポーター、多くの人同士でつながりや交流があればこそ、そういった情報を共有でき、就業につながります。それは地域の存続にもいえることです。」

市内では、農業・製造業など多くの業種で、後継者がいないために廃業する業者が後を絶ちません。廃業によって、長年受け継がれてきた技



移住サポーター
高橋 一夫さん（岩出山地域在住）

術や伝統が失われています。「地元の人を受け継いでいくには、限界があります。移住者が伝統を継承していくことがあっても良いと思います」と高橋さんは話します。

『移住者』も地域に根付き、いつかは「地元の人」となります。何気ない声掛けがコミュニティにつながり、地域のにぎわいにつながると話していただきました。